

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、新津圏域） 第3回会議 議事録

開催日時	令和6年1月23日（火）9時半から11時まで
参加者	委員：12人 事務局：5人 その他：6人（市役所・中央福祉事業所・南行政センター・地域包括支援センター）
場所	可美協働センター ホール
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 可新生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>① 前回会議の振り返り 生活支援コーディネーターより、第2回協議体会議の振り返りをした。</p> <p>② 情報共有 ■他地区の「居場所」について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福江サロン（富塚地区）：空き家を利用したサロン</li> <li>2. 健康マーじゃん（佐鳴台地区）：同じ趣味の人が集っているサロン</li> <li>3. 杜カフェ（神久呂地区）：地域にある施設を利用したカフェ</li> <li>4. みさとしゃべり場（引佐地区）：閉店した店舗を利用した居場所</li> <li>5. 漆島こども農園サロン（積志地区）：農園からの地域の輪</li> <li>6. ラジオ体操（二俣地区）：地域の施設を利用した居場所</li> <li>7. ラジオ体操同好会（新津地区米津町） <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催時間 6：30～10分間</li> <li>・参加費 無料</li> <li>・会員 21名（男性16名、女性5名）</li> <li>・年代 60代1名、70代12名、80代7名、90代1名</li> <li>・昨年末、14名の方が通算の参加が3000回に</li> </ul> <p>〔効果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝定時に起床</li> <li>・健康な身体づくり</li> <li>・一日のスイッチが入る</li> <li>・参加者同士で会話が生まれ、安否確認を含めた情報が入ってくる</li> </ul> </li> <li>8. にっばしカフェ（新津地区社協） <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回 午前9：30～11：30</li> <li>・参加費 100円（当日集金）</li> <li>・提供物 飲み物（お茶やコーヒー、紅茶など）とお菓子</li> <li>・飲み物やお菓子を口にしながら、コミュニケーション・居場所づくりを図る</li> </ul> </li> </ol> <p>★参加者は、時間内であればいつ来てもいい。いつ帰ってもいい。参加者それぞれが時間内を自由に過ごす。</p>

■ 1 2月6日 新津地区スマホ講座について

- ・シニアクラブ新津地区連合会主催
- ・目的：スマホの活用範囲を広げる
- ・当日の内容：スマホの種類（iPhone、アンドロイド）、QRコードの使用方法 他

★シニアクラブ新津地区連合会主催で、新津地区のシニアクラブに入会されている方を対象に、第2回スマホ教室を3月14日に開催予定。

■ 地区内を周る移動スーパーについて

1. 可美地区：サロンたかつかに移動スーパーを呼ぶことについて

（前回会議にて、）毎月第1月曜の13:00~15:00に活動しているサロンたかつかに合わせ、遠鉄ストアの移動スーパー新橋号に来てもらえないか。

→先日、担当者より「月曜日に高塚町の方面に行かないため、サロンたかつかの開催日に訪問することは難しい」との回答があった。

2. 新津地区：移動スーパーを周知させていきたい

移動スーパーをより多くの人に周知させ、買い物に困り感を抱える人を既存の資源とつなげていきたい。地域の方々に周知させる為、遠鉄ストアの移動スーパーが訪問する家の住所等を把握したい。

→市社協で担当の方に連絡し、遠鉄ストアの移動スーパー新橋号と南浅田号の訪問ルート把握した。新津地区グループワークにて共有。

③ 意見交換 テーマ：各地区における今後の取り組みについて

地区ごとに分かれて、意見交換をした。

〈可美地区グループワーク報告〉

■ 居場所について

・自治会より「子や母親が集まれる場所を作りたい」と話がある。「憩いの家」を誰でも来られる場所にしようと話し合いを始める予定。

・高齢者に特化せず、年齢を問わず参加できるカフェ。

・支える側である若い世代の参加が必要。高齢者と交流する事で老いるとはこういうものと気付くと思う。それが見守りにも役立つ。世代間のつながり、接点を増やしたい。また顔が分かっているかどうかで災害時の対応にも違いが出る。助かる人も増えるのでは。

・準備が大変なら場所だけ提供して、飲食は持ち込み自由のスタイルでも良いのでは。

・子どもとの交流について：中学生は部活、小学校高学年も習い事が忙しくなるので参加は難しいと思う。小学校低学年～中学年ならできそうだが、その親世代は子供を預けて働いている家庭が多い。年1回のふれあい交流会でも中々人が集まらない現状がある中で毎月となると厳しいのでは。

・以前、サロンで幼稚園児に来てもらい一緒に粘土細工をしたが、スケジュール調整や物品準備が大変だった。

・ふれあい交流センター可美を活用して、まずは月 1 回位で高齢者カフェを開催してみたらどうか。

#### ■買い物支援について

・サロン高塚に遠鉄ストアの移動販売を呼ぶ話は先方のスケジュール調整が出来ず、実現していない。一度来てもらってどういったものかを知ったほうが良いのではないか。

・移動スーパーについて：班長会では話をしたが、隣保長会で話が回っているか分からない。一人暮らしの高齢者も増えていて、今後は買い物に困る人も多くなってくると思う。困っている人には情報提供したい。

〈新津地区グループワーク報告〉

#### ■買い物支援について

・これまでも新津地区ではとくし丸やピオあつみや遠鉄ストアといった企業が周知を行ってきたが、地域住民の中では自身で連絡をして契約を行わなければいけなかったのかという人もいる。全体的に周知を行い、周知方法についても全員に利用方法が伝わるように周知を行う必要があるかもしれない。

・遠鉄ストアからいただいた、新津地区で南浅田号を利用している、近隣住民が来て良い個人で契約している方の情報を共有。もし今後周知を行うとしたら自治会の協力を依頼して回覧などで周知をしていく方法が考えられる。

⇒もし自治会全体で周知をするのであれば、個人に情報開示について許可を取らなければいけない。遠鉄ストアより販売員が聞き取りを協力してくれる可能性があると話を持っているので、本格的な周知を希望される場合は一度社協まで相談をしていただくようにした。

今後の移動支援を周知していく上で一企業の応援をするのではなく、新津地区の地域資源を充実させる為に必要といった点をアピールしながら地域に入れていくことが必要である。

・移動スーパーを行う利点としては直接買い物が出来ることはもちろん、本人世帯の見守りにつながっていくことも利点として挙げられるので高齢者世帯が利用をしていただけると良いと感じる。

・移動スーパーを現在利用している人がいるが認知症になってしまい、移動スーパーを来る日を忘れてしまう等が今後心配な点として挙げられる。

・新津シニアクラブでスマホ講座を行っている。まだ一回目で初級編だったためカメラの使い方を教えていただいたがゆくゆくはネット通販(Amazon 等)を利用出来るような講座を行ってもらうことも考えられるのでスマホ講座が買い物支援につながってくるかもしれない。

	<p>■全体的な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかく可美と新津での話し合いを行っているので意見交換をしたい。</li> </ul> <p>新津地区シニアクラブ副会長として参加をしているので可美地区のシニアクラブの話も伺いたい。良い活動は取り入れ、新津のやっていることも可美で参考になればと思うので情報交換をする機会があるとありがたい。</p> <p>4. 連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区再編に関わるお知らせ</li> </ul> <p>南区 長寿支援課→中央福祉事業所 長寿支援課（南）</p> <p>※名称は変わるが、行う業務については変更なし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度替わりによる所属や役職の変更、協議体委員の継続に関わる調査について</li> </ul> <p>5. 閉会 可新生活支援体制づくり協議体 副会長</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>〈今後の対応〉</p> <p>この協議体会議は他地区の同じ役の方と関わることができる機会となるため、今後会議内で、各地区の団体の良い活動など情報交換できる時間をつくっていく。</p> <p>〈可美地区〉</p> <p>高塚町北が買い物が難しい方が多いため、高塚北集会所に移動スーパーを呼ぶことができるよう今後も企業との調整を進めていく。一度来てもらうことで、移動スーパーがどういったものかを地域の方々に直接見て知ってもらう。また、場所だけ提供して、飲食は持ち込み自由・年齢を問わず参加できる地域カフェが今後開催できるよう、地域にある利用できそうな拠点を探していく。</p> <p>〈新津地区〉</p> <p>協議体会議では移動スーパーの情報が共有されているが、地域住民の中には移動スーパーについてよく知らない人がいる。今後は自治会に協力を依頼し回覧で地域に周知するなど、買い物に困り感を抱える人に対して必要に応じて周知を行っていく。</p>